

を通じて語学の大切さ、スケールの違いなどを実感しました。

その時の思い出は、厳しい寒さの中、港の沖に停泊している本船（貨物船）にサンパン（小型船）を横づけし、縄はしごを掛けて本船に乗船して連絡をとっていたことですね。安定性もないですし、もし切れたら冬の海へ落ちるといふ思いで命がけでした。まだ冷凍技術が発達していなかったため、夏に焼津から送られてくる冷凍マグロを、深夜に積み降ろしをしたのも記憶に残っています。

早い変化への対応と ソフト面の充実が今後は大切です。

経営者としての今後の会社のあり方をお話ください。

大正5年の創業以来84年間にわたり培われてきた借用が一番大切です。これからは、得意先のニーズにあった仕事をすると共に、自己革新をすること、その次に売上至上主義ではなく質の充実を図ることが重要だと思います。

視点も国内だけではなく海外にも目を向け、世の中の早い変化に対応していかなばなりません。国際物流やサービスでの「品質向上」などは諸外国を相手とする物流企業にはかせませません。当社は昨年3月に「ISO9002」の認証を取得しました。今後は世



界の動きを見据えながら事業を進めて行くことも必要です。そのためには、情報や人材の育成・教育が重要だと思います。教育は原点だと思うんですよ。森首相も来年はそれを目玉に参議院選を争うみたいですからね。

会社を支えるのは従業員であり、人材だと思うんですよ。人材という

字は「人財」という字を使うべきだと思います。人は会社の材料ではなく財産だからです。

「動から静へ」趣味も変わってきました。
体を動かすことが健康管理にもつながっています。

ご趣味についてお話をいただけますか。

年と共に趣味も変わってきましたが、以前は体を動かすのが好きでサンデーゴルフを楽しんだり、フィットネスクラブで水泳をしていたのですが、最近では極力歩くように努めています。串の利用を控え、バスなどは2区手前で降りるなど、なるべく楽をしないように心がけています。友人などに会っても話題は健康についてが多く、みんな万歩計などつけて歩いているようです。

また絵画鑑賞も好きで、日曜日の朝の「日曜美術館」を参考にして、出張先で時間を見つけて美術館へ行ったりしていますよ。花や草なども好きで、家では園芸もしています。



経済同友会筆頭代表幹事でいらっしゃいますが、「活力ある岐阜」についてお話ください。

岐阜県の県民性かもしれないのですが、やや保守的ではなかったかと思います。東海北陸自動車道も着実に延びて、早期の全線開通が期待されますが、道路交通網も発達して、東京や大阪などから串でも容易に来られるようになりましたので、21世紀にはこれまでとは違った面で変わって行くのではないかと思います。岐阜駅にできた「アクティブG」は、自分たちで作り上げ、他のブランド品を販売するのではなく、地元の特産品などを前面に出している点で良かったと思います。また、あれだけの伝統技術を集められた「TAKUMI 工房」は全国を探してもほかにはないでしょうね。

これからは、ある程度県民ひとりひとりが役割分担することが必要なのではないのでしょうか。21世紀はあらゆる分野で活力ある県に行きたいですね。